

◆通所介護ナイス・デイ◆訪問介護ナイス・ケア◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら

SOS vol. 198通信
H29年2月7日発行

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

《利用状況 案内板 (☆募集中★満員)》

☆ナイス・ケア ☆=利用者さん大募集♪
☆ナイス・デイ (定員 10名)
日 月 火 水 木 金 土
7 9 7 8 7 7 7
☆ナイス・ホーム (定員 21名、現在登録者 16名)
登録定員変更あり 25名→21名
(通い 12名→9名、泊まり 6名変更なし)
☆愛宕の家 (定員 17名中入居者 14名)
☆つしま紹介所
☆ナイス・キッズ
(平日、下校後の利用のみ募集中)
~参考にご利用下さい~

《2月行事予定》

3日 節分行事
10日 外食DAY
12日 基目寺朝一 (打太鼓)
15日 誕生日会
20日 避難訓練
25日 愛宕の家懇談会
(14:00~2時間程度)

《不定期行事》

天気や意欲等で状況判断し、外出一覧を参考に社会生活に参加します。

《教室案内》

・和太鼓 月曜日(年間 35回)
場所: 愛西市川淵コミュニティ
・コーラス 水曜日(月 2回)
場所: 喫茶てのひら
・バスケット金曜日(月 2~4回)
場所: 藤浪中学校体育館
※職員やキッズ達の趣味活動を兼ねて各教室を発足。地域の方々にも参加していただけます。
各教室月謝制で、定員あり。
詳細はお問い合わせ下さい。

流行ってる!? / ナイス・デイ

今、デイサービスでは、“お花紙貼り絵”に利用者もスタッフもはまりにはまっています。きっかけは、今年の年賀状作りから...薄いペラペラのお花紙を指で1枚ずつ剥し、くしゃくしゃにして台紙に貼っていく、簡単そうで根気のいる作業。でも、誰もが参加できる指先を使った手作業。指は必死に動かしながらも、おしゃべりしながら楽しい時間が過ぎていく。出来上がったときは皆で大歓声! レクリエーションの3つの意義①身体機能の維持と向上②認知機能の刺激③コミュニケーション、趣味の創出とあります。”お花紙貼り絵”もまさに①②③が揃っている。



いつも頭の中で皆が楽しく参加できる事はなんだろうなあ〜と考えています。まだまだ寒い季節は続いているようですが、春はもうすぐそこ...!? 次々に皆が楽しく参加出来る事はなんだろうな♪(M・O)

1月に2人の方の看取りをさせていただきました/愛宕の家

Aさん(平成24年11月1日入居...平成29年1月3日逝去)

年が明けて間もなく、愛宕の家最高齢のAさんが老衰で亡くなりました。他の施設に入所されていたが、帰宅願望が強く、また羞恥心から出る排泄介助への抵抗が強く介護が困難とのことだった。集団生活の中では暴力的になる一面もあり精神科病院へ入院方向であったが主治医と検討し愛宕の家での個別対応で改善されないものかということになり平成24年11月1日Aさんがやってきた。当時のAさんと言えば、関ることが難しかった。どうしたら関わりを持つことができるのか、受け入れてもらうように努力を重ねた。いつしか、排泄の介助をさせてもらえるようになり、お風呂にも入れるようになり、ご飯も食べられるようになり、穏やかな日常生活が送れるようになっていた。そして薬の内服もなくなっていた。

前夜までお元気で、いつものように会話ができただのに、本当に突然の事だった。認知症ながらも、時折見事に的を射たことをズバリと言われ、“今の私の心中が分かるのかな?”と不思議に思うこともあった。自分のことを“母さんと呼びなさい”と言われ、いつの間にか本当に“愛宕の母さん”になっていた。そしていつの間にか私たちを気づかせてくれることも多くなり、母さんの言葉に励まされたり、考えさせられたりしたことを思い出す。穏やかな結末、その有様をみて、これぞ極楽往生だと感じた。寂しいけれど豊かな看取りだった。

Hさん(平成28年12月8日入居...平成29年1月18日逝去)

1月半ば、Hさんが末期がんの末亡くなりました。10年以上前にHさんのご主人が当事業所のデイサービスを利用して下さっていた。28年12月、突然Hさんが愛宕の家に入居したいと現れた。ご主人はすでに亡くなっており、親族といえる人はいなかった。Hさんは、『愛宕の家で死ぬんだ』という。医師から余命宣告は受けていないが自分の限られた時間を感じていたのだろうか。看護師に『病院へは行かない。でも、どうやって死んでいくのか教えてほしい。私は苦しむのか?苦しんでもいいから、ここで最期を迎えたい。』と言っていた。ご自分の状況を分かっておられ、事あるごとに「私の命はもう長くないから。」と気丈に全てを受け入れている様子を見せており、「この本は処分してもいいわよ。」と渡された本の多くは、がん治療に関する本や、人生の終末をどう過ごすかという内容の本だった。しかし、身体が思うように動かなくなってきた頃、常に「そばにいてちょうだい。」「寂しい。」と言われるようになった。亡くなる前日には“腹持ちする物が食べたい”と言われ、大好きな卵かけご飯を食べた。そして、あっという間に去ってしまった。

関わった時間の長さなど関係ないくらい、ここに書ききれない言葉や出来事がたくさんある。続けてお二人の方が亡くなってしまわれ、一気に寂しくなった愛宕の家だが、それでも毎日は過ぎてゆくのだ...。いつも思う。ここは、人間の強さ、弱さ、色んな生き様をさらけ出し、人生というものを教えてもらっている。人の人生に関れるこの仕事は楽しくもあり怖くもある。お二人のご冥福をお祈りいたします。(K・T)



呼び方/ナイス・ケア

Tさんの訪問サービスで、起床介助中のヘルパーがTさんのご主人の事を「お父さん」と呼んだときの事でした。Tさんが「あんたたちのお父さんじゃないでしょ!お父さんと呼ぶなんて図々しい!!」と一喝...されたものの、なんと呼べばいいのだろう??と思ったのが正直な気持ちでした。以前からお父さんはお父さんと呼べばいいと言われていたはずだけど...

実は、事業所内でも利用者さんやご家族の呼び方について話題になり、親しみをもって呼んでいるつもりが、相手や家族を不快な気持ちにしているのではないかと、呼び方によっては虐待にもなりうる...と話し合っていました。

訪問先で呼び方を確認することがおそろかになっていたのです。

Tさんの一喝で“呼び方”の大切さに気付かされました。

皆さんは“呼び方”についてどう感じられていますか?もし、利用者さんやそのご家族、親しい方の呼び方で不快に思っている方、教えて頂けると助かります。自分たちの都合のよい勝手な親しみをもっていませんか?そう、肝に銘じました。これからは利用者さんやご家族の方たちに対しての呼び方も契約の際に確認させていただきます。(K・N)

子どものちから/ナイス・キッズ

先日、利用者さんのお宅に訪問サービスでお邪魔すると一枚の紙が壁に貼ってあった。よく見ると、ナイス・キッズの小2の女の子の描いた絵だ。「これどうしたの?」と尋ねると、「〇〇ちゃんが描いてくれた」と満面の笑みで答えてくれた。

またある日、何気に私が利用者さんの名前を口にすると、〇〇ちゃんは利用者さんの特徴を瞬時に答え始めた。「〇〇さんはいつもおいでおいでをしてくれるおじいちゃん」「〇〇さんはいつもお部屋の中を歩いている男の人」「〇〇さんはカチューシャをしているおばあちゃん」と的確に特徴をとらえている。

キッズの子供たちも学童の生活の中で利用者さんやスタッフの行動をよく見ている。時々、スタッフの何気ない発言に対しても、「あんなこと言ったらおじいちゃんかわいそうじゃん」と言われハツとすることがある。専門職として利用者さんや子ども達に恥じない対応を心掛けたい。

しかし...「〇〇ちゃんが描いてくれた」と話していた時の利用者さんの満面の笑みに、小2の女の子にジェラシーを感じるの私だけだろうか?(R・W)



自宅か施設か.../ナイス・ホーム

今、自宅に戻れるか、Tさんの状態と受け入れる家族の状態で悩んでいる利用者さんがいる。何とか自宅とナイスホームで関わり続けられないものか...と、現状はナイス・ホームの緊急対応として連泊してみえるのですが、費用の点、ご家族の生活など、広い視野で今後の生活を検討しなければならない。

Tさんは、落ち着かなくなると、部屋中を歩き回って物をあちこち動かしてしまう。本人にしてみれば「片づけている。」しかし、家族にしてみれば「触らないで、じっとして」と言ってしまう。自宅の限られた空間で毎日のようにその行動を見守る家族は精神的に参ってしまう。

家族、本人共に、出来ることなら自宅で過ごすことが意向だが、家族の精神的不安やTさんの不安定な病状が自宅へ帰れない要因となっている。

では、ナイス・ホームとして、その不安をどのようなケアプランで支援が可能なのか?施設入所がいけないわけではないが、費用的にも無理があるため、小規模多機能事業所として関わらせていただいた以上、それは最終手段にしたい。医療や必要機関の協力、活用できる資源、たくさんの情報を持って関わることで「良かった、小規模だから自宅の生活に戻れた。家にいる時、困ったら頼むよ」と、頼られながら家族全体を支援していけないものか、試行錯誤の連続である。

「おーい、おーい」何度も呼ぶ方。何も言わないけど、困った表情をしている方。気持ちと口はうらはらな言葉を発する方。人は自分も含め気持ちを上手く表せない事が多い。「声なき声」という言葉がある。私たちは、利用者さん、ご家族の「声なき声」をどれだけ察知できているのか。察知するための努力が足りないのではないかと感じる。日々の関わり、会話、そしてそこからでは見えてこない何かを感じる力を身に付けていきたい。(Y・O)

SOS通信はホームページへの掲載と合わせ、地域の関係者や事業所、ご家族様へも発送しています。

2月の発送部数 89部

~ 介護プロフェッショナルキャリア段位制度③ ~

《段位取得者》 1期生&2期生(計4名)
《現在、技術評価中》 3期生(3名)4期生(3名)

《編集後記》高齢者権利擁護推進委員会発足:先月、高齢者権利擁護推進研修に参加。身体拘束、高齢者権利擁護とは何かを改めて学んできた。そして、SOSに初の委員会を発足させた。充実した意味のある委員会にしていくために、何からはじめようか...模索中♪(M・T)